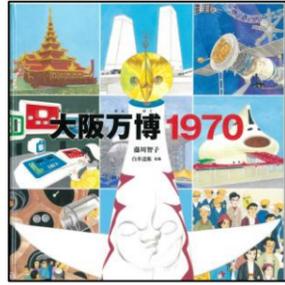


大阪万博1970

藤川 智子／著
白井 達郎／監修
ほるぷ出版



この本は、55年前に大阪で開かれた大阪万博について書かれている。1970年のアメリカ館では、月の石が展示されて大人気だった。月の石は、2025年の万博でも見られるよ。また、2025年は、日本館で南極に落ちた火星由来の隕石も展示されているよ。そんな風に昔と今を比べたりもできる。読んでから行くか、行ってから読むか、どっちにする？

夏のおてがみ

中学生のみなさんへ

忙しい毎日に、本で一息ついてみませんか？

気になる一冊をみつけたら、夏休みにぜひ図書館に来て

ください。



2025年 富田林市立図書館

恐竜博物館のひみつ

別司 芳子／作
ながおか えつこ／絵
文研出版



恐竜博物館で研究員をしている天野は、夜の博物館に一人が残っていました。ドアをあけて電気のスイッチをおしたとたん、化石が放り出されていてびっくり。それは、ぼろぼろで、ほとんど甲羅がないカメの化石。でも、「ポロポロとはひどいあいさつだな」とカメの化石が話しかけてきた！夜の恐竜博物館の秘密とは、いったい何でしょうか。

海 ～ビーグル号で海たんけん～

高久 至／写真・文
アリス館



著者が自分で改造したキャンピングカーで、日本中を移動しながら各地の海に潜って撮影した記録がまとめられている。車の改造の図解や、海探検のために工夫したこと、海中の写真、旅で出会った人たち、旅で体験したこと。日本各地の海は驚きや発見がいっぱいだ。読めば自分も探検したくなるかも。

スゴすぎ！サバイバル！ 危険昆虫超図鑑

丸山 宗利／監修
中野 富美子／構成・文
あかね書房



オオスズメバチ、ヒアリ、トコジラミ…。危険な昆虫は、家や公園、川など様々なところにいます。この本では、そんな危険な昆虫がたくさん紹介されています。ヒトと比較した昆虫の大きさや、特にどの部分が危険なのか、といったこともわかります。楽しく昆虫のことを知って、危険な昆虫から身を守りましょう。

あたらし島のオードリー

川上 和人／文
箕輪 義隆／絵
アリス館



カツオドリの女の子、オードリーは、ある日、海からけむりが上がっているのを見つけました。そこには小さな島ができており、噴火がおこっていました。オードリーが名付けた「あたらし島」は噴火をつづけ、冷えた溶岩がかたまって大きくなっていきました。オードリーたちの住む場所は、どうになってしまうのでしょうか。

わたしの名前はオクトーバー

カチャ・ベーレン／作
こだま ともこ／訳 評論社



森の中で父親と二人きりでくらす少女オクトーバー。学校に通わず、友達は森で助けたフクロウのひなだけ。十一歳の誕生日に悲劇が起こり、ロンドンでくらすことになったオクトーバーは、街や学校、友達、これまではなれて暮らしていた母親との関係を築いていけるのか。苦しみがながらも新たな世界が開かれていく少女の成長の物語。

ズーミング！旅客機

チャーリー古庄／著
秀和システム



世界中の上空を飛び

回っている飛行機の裏側を見てみよう。旅客機の鼻の中には何が入っているのか、燃料はどこに積み込まれているのかなど、飛行機について不思議に思うことの答えがこの本の中には書かれています。大きな飛行機が飛ぶのが信じられない人も、きっと読むと納得できると思います。旅行に出かける前に読んでみませんか。

働く現場をみてみよう！！
わたしたちが寝ている時間の仕事
パーソルキャリア株式会社“はたらく”を
考えるワークショップ推進チーム／監修
保育社



みんなが寝静まった夜遅くに仕事を始める人たちがいます。テーマパークの整備士の人は、みんなが安心して楽しめるように毎日作業をしています。また、航空管制官は、1日を3交代で24時間飛び続けている飛行機の安全を守り続けています。毎日の生活をたくさんの方が支えていることをこの本を通して発見してみてください。

夏がいく

伊多波 碧／作
おとない ちあき／絵
理論社



はたご
旅籠の跡とり息子の

優太は寺子屋に通っている。最近はその旅籠に幽霊が出ると噂がたち、寺子屋でからかわれるようになった。そんな中、侍の子の清吾が新たに寺子屋に通ってくるようになった。清吾は大人びていて、優太とは気があった。二人は幽霊騒動を解決するため、旅籠の離れに一緒に泊まることとなる。

タコのなぞ 「海の賢者」のひみつ88

池田 譲／著
講談社



突然ですがクイズです。タコの足は何本でしょう。8本？実は違います。みなさんが足と呼んでいる部分は、生物学的には腕なのです。タコの腕はいろいろなことができます。移動したり、エサをつかまえたりするほか、匂いもわかります。腕をよく見ればオスとメスを見分けることもできます。見分け方は、この本を読んでみてね。



意味がわかるとおもしろい！ 世界のスゴイ彫刻

佐藤 晃子／著
Gakken



彫刻の見方が分からない、という人は多いと思います。

例えば、有名な彫刻の一つであるロダンの「考える人」。この彫刻の男性、真剣な顔で何を考えているのでしょうか？実は、門の上から下のある景色を見みつめる人物として作られました。そう聞くと、作品の見方が変わりますよね？約70点の彫刻のみどころが紹介されていますよ。

ミルキーウェイ 竹雀農業高校牛部

堀米 薫／著
新日本出版社



夢生は小さいころにハムスターを飼った経験から、いつか動物に関わる仕事がしたいと思うようになった。そうして進学先に選んだのが竹雀農業高校だった。入学式の帰り道、夢生はその後の学生生活全てを捧げることになる、運命の出会いをする。視線の先に現れたのはなんと作業着姿の女子生徒に連れられた「牛」だった。

読み継がれてきた名作

くんちゃんのだいいりょう
ドロシー・マリノ／文・絵

石井 桃子／訳
岩波書店



寒くなってきたある日、くまのくんちゃんはお父さんお母さんと散歩にでかけました。そこで、鳥が暖かい南の国に移動すると聞いて、くんちゃんも南の国に行きたくなりました。くんちゃん親子は、そろそろ冬ごもりの季節です。「でも、ぼくいちどだけいってみたい。」とお母さんにお願いします。くんちゃんは、南の島にいけるかな？

